▲　原田紗弥（さや）ちゃん　お母さんやお兄ちゃんたちと初参り

慧光（えこう）

金光寺寺報
第１５９号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
℡０９８２
８３－２３３８

今月のことば

お念仏は　讃嘆（さんだん）であり　懺悔（さんげ）である

今月のことばは、金子大榮（かねこだいえい）師のことばです。『金子大榮対話集』に、

久遠劫来（くおんごうらい）迷うてきた。いま初めての迷いではないというようなことはみな懺悔（さんげ）の言葉である。

そして弥陀の本願というものがあって、それに遇（あ）うことができたという喜びが讃嘆（さんだん）になっている。そういうふうな立体的なものである。

と述べられています。

お念仏が讃嘆であり懺悔であるという意を示すお言葉が、親鸞聖人のお聖教（しょうぎょう）のなかにあります。

『尊号真像銘文（そんごうしんぞうめいもん）』には、阿弥陀如来の本願の救いを聞き受けた、信心の念仏者が一声称（となな）える称名念仏は、阿弥陀如来の全ての徳を実の如くに讃嘆することになるといい、久しく遠い昔からの自らの造ってきた迷いの因である罪を懺悔していることになるというのです。

その信心の念仏者の称名念仏は、お釈迦さまが『大経（だいきょう）』を説いて阿弥陀如来の功徳（くどく）を如実に讃嘆したものと等しいと言ってもいいのです。

凡夫（ぼんぶ）の私が称えたことが等しいのではありません。信ぜしめられ、称えせしめられた念仏ですから、阿弥陀如来を如実に讃嘆したことになっていると、信心の利益（りやく）として説かれているのです。

懺悔する心、それは私の中からはでてきません。阿弥陀如来の救いに照らされ、本願を信ぜしめられ、自らの本性が知らしめられ、懺悔することになるのです。

阿弥陀如来を讃嘆することも、自らの至らなさ愚かさを懺悔することも、ともに阿弥陀如来の救いの利益によるものだったのです。

（本願寺出版社刊「大乗」誌より転載）

仏事お休みのお知らせ

下記の期日は緊急を除き、仕事は休ませていただきます。ご協力をお願いいたします。

記

◎　９　月
　１１日　教学勉強会（宮崎市）
　２３日　秋季彼岸会法要

◎　１０月
　１９日　宮崎教区仏教壮年大会

◎　１１月
　２８日　仏前結婚式準備
　２９日　仏前結婚式

８月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

２０１４年　８月　８日寂　満５４歳
祇園町　黒木伸一様
２０１４年　８月１５日寂　満７９歳
祇園町　谷口ノブ子様
２０１４年　８月２０日寂　満８５歳
深瀬　藤井フク様
２０１４年　８月２７日寂　満８８歳
中一　吉田ハル様

ホームページ開いてます。
URL　http：//konkhoji.jp/
９月６日現在　アクセス数　７４，６４９人

仏教用語豆辞典

自由自在（じゆうじざい）

ベルリンの壁以来、「自由」という言葉が、世界中を駆け回っています。

仏教では、あらゆる束縛から解き放された境地を「自由」といいます。悟りの境地のことです。

他のものの影響や支配を受けることなく、独立自尊で、それ自身において存在することのできる、安らかな境地をいいます。

自由であれば、自分の思い通りの存**在**となれるので、これを「自在」といいます。

仏や菩薩はそのような力を具（そな）えているので、仏のことを自在人といい、観世音菩薩のことを観自在菩薩といいます。

その自在の力には、世の中を見抜く自在、説法・教化をなしうる自在、自由に種々の国土に生まれ、国土を清浄にする自在、寿命を伸縮できる自在など、種々の自在が説かれています。

だから、自由自在とは、何ものにもとらわれることのない、のびのびとした安らかな心身の境地と、そこから現われる、とらわれない働きをいうのです。

決して、わがまま勝手なことではありません。

（本願寺出版社発行
辻本敬順著
「仏教用語豆辞典一〇〇
パートⅡ」から）

住職ひとりごと

雨、あめ、アメ、AME、RAIN。いやになりますね。日照りが続くと欲しくてたまらなくなる雨も、これだけ連日降ると「いいかげんいいや」という気持ちになってしまいます。でも、雨に打たれた桜の葉はドンドン、しかも広がらずに落ちますので、路面にくっつくことを除けば、「雨もまあいいか」という気持ちにもなれます。人間ってマジ自分勝手ですよね。▼息子が学生生活に余裕のある大学三年、娘が受験競争から解放された大学一年という状況を鑑みて、家族四人で旅行に行けるのは最後のチャンスかもと思い、二泊三日の旅行に行ってきました。不慣れな所でしたので、目的地到達に苦労するかなと思ったのですが、子供たちの携帯☎は私の携帯☎と違ってとても活躍してくれ、不自由ない二泊三日の旅行ができました。私の携帯☎も子供たちのものと性能は遜色ないものでしたが、使用者の性能は格段の違いがあり、☎のように買い替えることができればすぐ替えるのにと思ったことでした。（住職　松井卓郎）

美しきあかねの空

お彼岸

彼岸とは、念仏の教えをいただいたものが、いのち終えて生まれていくさとりの世界。仏となった懐かしい方々がおられる、阿弥陀如来の西方浄土のことである。

善導大師はお示しになる。

西の岸の上に人ありて喚ばひていはく
なんぢ一心正念にしてただちに来れ
われよくなんぢを護らん

阿弥陀如来は、「必ず救う、われにまかせよ」と、西の岸より呼びかけておられる。如来のよび声は、南無阿弥陀仏の名号となって、今この私に届いている。

如来に抱かれ、先に浄土に生まれた方々に導かれて、彼岸へと続くただ一つの道、念仏の道を歩むのである。

月日の経つのは早いものです。もう九月になりました。今年も残り四カ月です。

九月、秋彼岸をお迎えします。そこで、今月号本欄では『拝読　浄土真宗のみ教え』の「お彼岸」という法話（上記）を掲載しました。ご一読ください。

ところで、彼岸会の始まりは聖徳太子の頃とされています。最初は朝廷や寺院だけで法要が営まれていました。それが江戸時代になって、寺参りや墓参りをするという形で民衆にも広まっていったようです。

お彼岸は春も秋もお中日を中心にして前後三日間ずつ、計七日間で営まれます。お中日（春分、秋分の日）が中心になるのは、太陽が真西に沈むからです。『仏説観無量寿経』に説かれる十三種類の観法の中、第一番目が、没する太陽を観る日想観です。沈んでいく太陽を見て、西方極楽浄土への往生を願うというおすすめが次第と定着していきます。

真西に涼む太陽の方向が一番分かり易い阿弥陀如来の西方浄土だったのです。

両親おくり　妻さきにゆき
子のいそぐ
あかねの雲は
美しき哉

この歌は、龍谷大学で教鞭をとられていた土橋秀高先生が作られたものです。

ご両親、奥さま、一人息子さん、お孫さんまで先生のもとから離れていかれたのに、「あかねの雲は美しい」と嘆ぜられているこの歌を拝見して、いつも真東から上がり、真西に沈むお彼岸の太陽の美しい夕焼けを思い浮かべます。

そんな美しい西方にある阿弥陀さまのお浄土。そこに救われていかれた懐かしい方々のお導きをいただき、迷いの岸から救いの彼岸へ念仏無礙の一道を歩ませていただきたいものです。

秋のお彼岸のご縁。しっかりおつとめください。

法語の世界

《原　文》

大坂殿にて、ある人、前々住上人（蓮如）に申され候ふ。今朝暁より老いたるものにて候ふがまゐられ候ふ。神変なることなるよし申され候へば、やがて仰せられ候ふ。信だにあれば辛労とはおもはぬなり。信のうへは仏恩報謝と存じ候へば、苦労とは思はぬなりと仰せられしと云々。老者と申すは田上の了宗なりと云々。

（蓮如上人御一代記聞書　百七十二）

《現代語訳》

大坂御坊で、ある人が蓮如上人に、「今朝、まだ暗いうちから一人の老人が参詣しておられました。まことに立派な心がけです」と申し上げたところ、上人はすぐさま、「信心をいただいた上は、すべてを仏恩報謝と心得るのであるから、苦労とは思わないのである」と仰せになりました。その老人というのは、田上の了宗であったということです。

平成二十六年秋季彼岸会法要のお知らせ

とき　九月二十三日（火）　午前十時～
勤行　正信念仏偈（草譜）念仏和讃（六首引き）
ご講師　宮崎教区　高千穂組　正念寺住職
浄土真宗本願寺派布教使
吉　村　順　正　師
その他　彼岸会法要は金光寺仏教婦人会の例会です。仏教婦人会会員の皆さんの法要ご参詣をお願いします。
また、一般門信徒の皆さんのご参詣もお待ちいたしております。

日融工房　葬儀会葬品のご案内

五ヶ瀬町桑野内にある福祉作業所「日融工房」では葬儀会葬のお返し品を作成販売されています。

本品をご利用くださると、福祉に利用作業所で作業をされている身体がハンディのある方々のお給料が応じて高くできるそうです。

福祉作業所「日融工房」の就労継続支援の主旨をご理解いただき、本品をご利用いただければ幸いです。